

危機管理会議 2016 エリック・ヤップ SCDF 長官による議長総括

(2016 年 11 月 11 日、於ペリドット・ルーム 202-203/シンガポール・エキスポ内マックス・アトリア)

最初に、次回の危機管理会議を開催されるソウル市消防災難本部の代表であるキム副長官に、心よりお祝い申し上げます。ソウルでの会議を大変楽しみにしておりますし、参加都市の皆様の様々な経験から、危機管理・災害管理について学べますことを期待しております。

本日の会議は、1 日で 10 個ものプレゼンテーションを聞くなど、とても密度の濃いものだったと思います。実は今、シンガポール民間カレッジのコースを開催しておりますが、1 年前、本会議の開催をお受けしましたので、本日はカレッジのコースを抜けてこちらの会議に参加いたしました。本日議論されたトピックは、イノベーション戦略、学び、経験からの教訓、テクノロジーを活用した訓練向上など、とても多様性がありつつも、すべてが危機管理に関連するものでした。

全てのプレゼンを踏まえ、私から四つの要点に触れたいと思います。皆さんにご共鳴いただけると嬉しいです。

最初の二点は、「コミュニティの自助」「共助」です。この二点に、私は共鳴しました。シンガポールのプレゼンテーションは、「ビジョン 2025」に掲げる救命立国というコンセプトをどのように実現するかというものでしたが、その中でこの二点が触れられておりました。また、ジャカルタのスベジョー氏からも、地域コミュニティの訓練の必要性や、互いに緊急援助できるようコミュニティに備品を供給している取組について話がありました。

また東京の警視庁から、語学ボランティア・学生ボランティアに関する話がありました。「自助」というコンセプトは、とても重要です。我々は皆、危機管理対応という業務にあたっています。我々は危機管理対応者として、緊急事態に日々対応していますが、電話を受けた時点ではもう遅いのです。すでに時計は動きだしています。SCDF のような緊急対応組織でも、事態に対応するのに 8 分間かかります。15 分かかる組織もあるでしょう。そしてジャカルタのような渋滞都市では、これは非常に大きな課題といえるでしょう。従って、コミュニティの自助、そして共助というのは、強調してもしきれないくらい重要です。

プレゼンテーションの中で私が共鳴した三点目は、「準備のための訓練」という点です。この点について、詳しく述べさせてください。組織にとって、訓練は準備のための方法のひとつです。ロンドン市消防局のプレゼンテーションでは、EUR 訓練について、ロンドンが

約 2 年かけて訓練をどのように準備し、多くの関係機関や国際チームと共同で実施したのかについて話がありました。これほどの規模の合同訓練の運営は、非常に大変だったと思います。しかし、訓練の教訓や訓練後に得られた新たな視点は、非常に価値の大きいものです。訓練の終了地点は、やらなければならない多くのことのスタート地点であり、そこからシステムが改善されていく、私はこれこそが真の訓練の価値だと思います。

新北のプレゼンテーションでは、海外における合同訓練について話がありました。海外のカウンターパートとの訓練は、我々にとって非常に意味の大きいものだと思います。海外都市との合同訓練を通じ、新たな手法や知識を学び、我々の能力やオペレーションを新たなレベルまで引き上げることができるのです。

最後の要点は、「テクノロジーの活用」で、これは統合指揮訓練センター（ICTC）に関するソウルのプレゼンテーションで触れられました。訓練におけるバーチャルリアリティ（VR）利用は、大いに活用すべきテクノロジーだと考えます。こういったテクノロジーを活用することによって、従来の方法では到達することのできなかった限界点を超えることが可能となるのです。ロンドン市消防局のピーター氏と、昼食の時こんな話をしました。緊急事態というもの近代社会において常に変化していて、シンガポールのような国家は多くの制約を受けていると。我々が直面している最大の制約の一つは、人材不足です。その一方で、社会からはより多くのサービス供給が求められています。そのため、緊急事態が発生した際、人材不足は我々にとって制約となります。今こそ、VR のようなテクノロジーを活用していく時なのです。

昨日、CDA や HTTC を訪問された方もいると思いますが、これらは SCDF が警察と一緒に作った最新のトレーニング施設であります。マンダイの新たな施設によって、我々は訓練を新たな基点に移すことができるとともに、昨日ご覧いただいた CDA の再開発を図っていくことが可能になります。実際のところ、CDA の全ての敷地は、容積率の関係で全てが活用されているわけではありません。また、CDA における訓練の多くは、雷の影響で中断を余儀なくされます。今後 CDA には、高層階の建物と訓練施設を建設し、各階で VR を活用したトレーニングや通常の燃焼トレーニングなどを行えるようにする計画です。それにより消防士たちがよりリアリティのある訓練を行えるようになります。

基調講演者であるサイード・ファイサル氏からは、ASEAN の対応メカニズムと、緊急事態発生時に災害備蓄品が早急に分配できるよう計画された標準業務手順書（SOP）の検討プロセスについて話がありました。これは、予期されたシナリオであり、また未知のシナリオでもあり、我々はそれに向けて対応していくのです。

最後に、ご参加いただいた都市の皆様と交流できたことを、心より嬉しく思っております。明日は SGFPC の決勝戦がある、我々にとって重要な日であり、皆様にもぜひお越しただけだと存じます。とても素晴らしいイベントであり、ファイサル氏にお尋ねになれば、その雰囲気をお話になるでしょう。彼にとって3回目の参加となるそうです。彼は「参加するたびに新たな発見がある」と仰っています。まさにそのとおりであり、これは我々全員が1つの結束、危機管理対応者同士の結束で結ばれているからこそです。困っている人々に最良のサービスを提供すること、それこそが我々の使命であると確信しています。

改めて、本日はご参加いただきありがとうございます。また昨日そして明日のご参加にも同様に御礼申し上げます。この後、夕食会のご用意をしております。夕食の後、皆様がシンガポールの雰囲気を少しでも感じてくださればと思います。どうぞ楽しい夜をお過ごしください。ありがとうございました。

